

親鸞聖人 御絵伝

第二軸

第四図



第三図

第二図

第一図

第四図 「入西鑑察」(にゅうさいかんざつ)

五条西洞院の禅房で、弟子の入西房(にゅうさいぼう)に御真影を写すことを許可されているところが描かれています。

右半分は入西房に御真影を写すことを許されているところ。

左半分は筆を持ち御真影を写している定禅法橋(じょうぜんほっきょう)の姿が描かれています。

第三図 「信心争論」(しんじんじょうろん)

吉水の禅房で、親鸞聖人の信心も法然上人の信心も同一であるということが問題になり、正信房以下の人々と論争されました。

そこで、法然上人の判決が信心に変わりがないとされたので、今更ながら親鸞聖人の信心堅固に驚嘆された情景が描かれています。

第二図 「信行両座」(しんぎょうりょうざ)

吉水の禅房で行信両座を分け、それぞれの所信を試みている情景です。

右半分は信行両座に分けることについて内談しているところを描き、左半分は内談の翌日、信行両座に分けて親鸞聖人が記帳しているところを描いている。

第一図 「選択付属」(せんじゃくふぞく)

吉水の禅房の情景です。向かって右半分は、親鸞聖人が法然上人から『選択本願念仏集』を受けられているところが描かれ、

左半分は吉水の禅房で、元久2年7月29日、法然上人がご真影に讃銘され、それを親鸞聖人に授けているところが描かれています。